



社名の由来である
“若きウェルテルの悩み”のヒロイン
「シャルロット」

株式会社ロッテ
2022年10月5日（水）

研究

シュガーフリーチョコレート摂取後の血糖値上昇が 通常のチョコレート摂取後に比べて低いことを論文報告 ～【研究に関するお知らせ】薬理と治療(2022年50巻3号)に論文掲載～

株式会社ロッテ(代表取締役社長執行役員:牛腸 栄一)は、食品の健康機能に着目し、様々な研究に取り組んでおります。この度、「シュガーフリーチョコレート喫食時の血糖への影響」の研究を実施し、本研究成果が「薬理と治療(2022年50巻3号)」に論文掲載されたことをお知らせします。

今回の研究により、「シュガーフリーチョコレート摂取後の血糖値上昇は通常のミルクチョコレート※摂取後と比較して小さい」ことを確認しました。

※日本食品標準成分表(八訂)に準拠した配合のミルクチョコレート

■研究概要

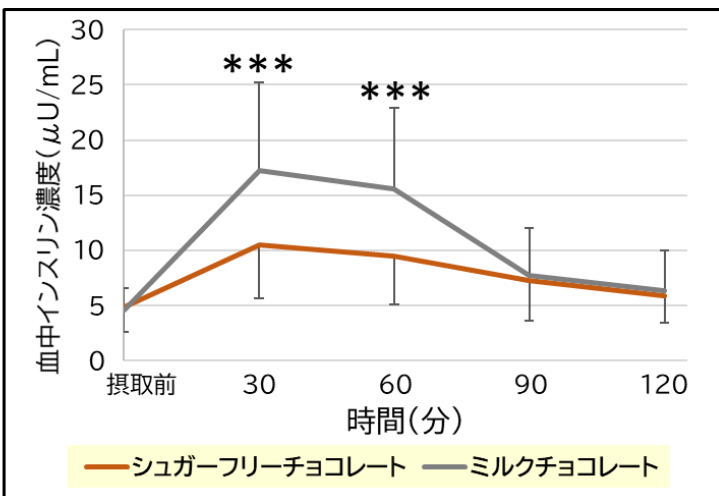
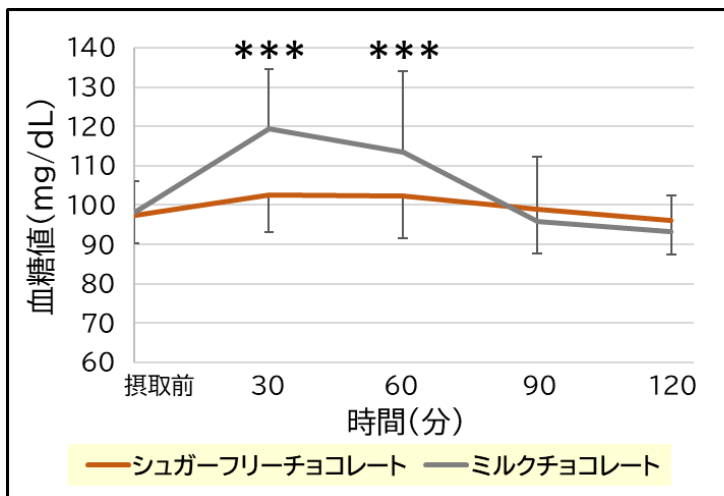
食品に含まれる糖が吸収されると血糖値が上昇し、インスリンのはたらきによって元の血糖値に戻ります。血糖値の急上昇は糖尿病の危険因子として知られており、日々の間食で食べるものを血糖値が上昇しにくい食品にすることは、健康の維持増進につながると考えられます。本研究では、シュガーフリーチョコレートまたは通常のミルクチョコレートを摂取した際の血糖値上昇を比較しました。また、インスリンや中性脂肪、GLP-1などその他血中指標への影響についても比較しました。

【対象】20歳以上65歳未満の健康成人32名(単盲検クロスオーバー試験)

【方法】シュガーフリーチョコレートまたはミルクチョコレートを40g摂取し、摂取前、摂取後30分、60分、90分、120分に採血し、血糖値、インスリン濃度、中性脂肪濃度、活性型GLP-1濃度を測定

■研究結果

シュガーフリーチョコレート摂取による血糖値上昇は、ミルクチョコレート摂取による血糖値上昇に比べ小さいことが確認されました。インスリン分泌においても、シュガーフリーチョコレートの方が少なくなることが示唆されました。



***: $p < 0.001$

対応のあるt検定 シュガーフリーチョコレート摂取時 vs. ミルクチョコレート摂取時
エラーバー: 標準偏差

【掲載紙】

薬理と治療(2022年50巻3号、433-437)

タイトル: シュガーフリーチョコレート喫食時の血糖への影響

著者: 佐藤 将太、川村 淳、齋藤 圭祐、岩間 義孝、奥山 知子

■この件に関するお問い合わせ先

株式会社ロッテ

TEL: 0120-302-300(フリーダイヤル)